

カルイザワ芸術新聞 2018



新・創刊号

「共生の思想と緑陰の活用でアートな軽井沢を」

8月4日、FIACS 主催第4回まちづくり講演会および交流会開催@友愛山荘



軽井沢が向かうべき 近未来を語る

各界の要職にある別荘民で、軽井沢の将来に貢献したいとする仲間が集まって設立した国際文化都市整備機構 (FIACS)。同団体主催の講演会および交流会が8月4日に友愛山荘で開催された。4年目の今回は共生の思想と緑陰の価値を強調する報告が相次ぎ、多くの美術館にもメールを送る結果となった。町内では来年の選挙を意識しつつ様々な政策課題が議論され始めているが、次に向かうべき姿を考える上で大いに参考となりそうだ。

歴史・文化のこれから

FIACS 理事長・水野誠一氏 (元西武百貨店社長・元参議院議員) の主催者挨拶の後、FIACS 副会長・松平定知氏 (元 NHK) の講演が行われた。歴史を歯切れよく解説する同氏によって軽井沢の文化的価値が一層鮮明になった。

次いで登壇した FIACS 副理事長・増田宗昭氏 (CCC 社長) の講演は「軽井沢&東京、新しいライフスタイルの提案」。平安堂の閉鎖後、長らく書店のない状態が続いていた軽井沢であるが、今年 CCC によって『軽井沢書店』がオープンし一躍注目を集めることとなった。



同社のデータによると上記書店に集まるのはアウトレットモール同様、地元以上に県外、特に東京からが圧倒的に多く「軽井沢は東京の 24 番目の区であることがよく分かった」(増田氏) とのコメントが紹介された。「この流れで今度は森 (緑陰) の中に本格的な蔭屋書店をオープンしたい」(同氏) という力強い発言まで飛び出し、聴衆がどよめくシーンが見られた。

森と人で織り成す 共生の思想

続いて識者からの報告となり、まず FIACS 理事・團紀彦氏 (青学大教授・セゾン現代美術館理事) による「共生の思想と軽井沢における展開」が紹介された。セゾン現代美術館を中心とする千ヶ滝地区の将来は共生の思想に基づいて検討されるべきとの同氏の主張は、長らく停滞している同地区にとって一筋の光明になるに違いない。



次に登壇した泊三夫氏 (前博報堂顧問) の発表は、團氏による共生の思想を歴史的医学的な観点からフォローする「脳養地としての軽井沢」。さらに岡崎哲也氏 (松竹常務) の「エンタメ産業から見た軽井沢」は、増田氏が述べた緑陰の価値がエンタメ分野にも貴重であることを論じたものだ。



講演会の締め括りは「登壇者と一般参加者との意見交換会」の予定であったが、識者の熱い報告が続いたことから時間が超過。予定を変更して、そのまま友愛山荘中庭での「交流会」となった。FIACS 会長・鳩山由紀夫氏 (元総理大臣) の講評・総括に続き、あちらこちらでの真剣なやり取りや談笑の音が晴天の夏空に高く響く中、今年も無事閉会。



昨年同様、講演会は区長・町議ほか地元識者に案内。また交流会ではメディア (FM 軽井沢、軽井沢新聞社、軽井沢ニュース社) からの登壇者ほか、各識者への取材・インタビュー・写真撮影が相次いだ。多くの町民、別荘民の関心の高いテーマであるだけに、より多くの方々の参加が望まれる内容であったと感じる。この点については「次回 (第5回) はさらに多くの財界人に集ってもらい盛大にやりたい」(FIACS 理事長・水野氏) との発言もあり、今後の展開に期待したい。



軽井沢書店

〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 (大字) 1323 TEL.0267-41-1331 FAX.0267-41-1332
営業時間 9:00-21:00 (水曜定休) ※季節により営業時間が変更になる場合がございます。
夏期営業 7月21日(土) - 8月19日(日) 8:00-22:00

